

節分の朝

染谷 秀雄

夏風先生が逝去されてはや半年、先生の誕生日の翌日、二月二日の未明から今年二回目の雪となった。庭は一面雪化粧したが前回ほどではなく、ここ数日大気の冷たさはあるものの雪解けの進みが早くさすがに春近しを感じる。久々の休日、今日は節分で豆も用意してある。暫くして日が差してきたので霜柱が解けて湿りを帯びている庭に何か芽が出てないかと思いつきながら目を懲らすと早くも貝母がしっかりと芽を伸ばしている。雪の重みで少し押しつぶされたようになってるのを起こそうと触つてみると柔らかだ。もともと貝母は折れやすいのでそのままそつとしておいた。暫くして庭に出てみると貝母はもう真つ直ぐになり、測つてみたら丈の高いところで十センチほどになっているのは驚いた。緑の濃い葉を伸ばし芯は紫を濃くしている。この貝母は親しい友人から分けて貰ったもので大事に育ててもう十年近くになり、今ではその勢力を広げつつある。強い生命力だ。植えて二、三年目は芽がでてほほんの少し伸びるが咲く気配は全くなくそのうち時季が来ると溶けるように消えてしまう。そんなことを繰り返してようやく二年ほど前から丈も五、六十センチになり花が咲くようになった。そうなると今度は逞しさが加わり根を広げ、思ってもみないところに出てくるようになった。

寒さもようやくやぐ和らぎ春隣を実感した節分であった。夕方には柀を切つて目刺しと一緒に玄関に挿す。夜には豆を撒く、明日はもう立春である。